

家族と健康

健康教育情報紙

一般社団法人 日本家族計画協会
リプロ・ヘルス推進事業本部
健康教育推進本部

協力：公益財団法人予防医学事業中央会
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 http://www.jfpa.or.jp
発行人：近 泰男 編集人：櫻田 忠宏 henshu@jfpa.or.jp
毎月1回1日発行 年購読料¥3150 1部¥315千円

JFPAは
5Aの
実現を目指
します！
① Adolescent 思春期保健の推進
② Abortion 人工妊娠中絶の防止
③ Access どこでも誰もがサー
ビスを受けられる
④ Advocacy 啓発・提言活動
⑤ AIDS STD及びHIV/エイズの予防

今月のページ

- エイズ予防啓発活動
— 全国同時ピアを開催して 他
2面
- 女性のライフサイクルとメンタルヘルス④
3面
- 第6回男女の生活と意識に関する調査(続き)
4～5面
- 産業看護の半世紀とこれからの展望②
6面
- 海外情報クリップ
7面
- 避妊教育ネットワークワークシールート③
8面



(8面) (2面)

トピック

出生数103万3千人 人口自然減21万2千人 平成24年人口動態統計

厚生労働省は1月1日、平成24年(2012年)人口動態統計の年間推計を発表。出生数は過去最少、人口の減少幅は過去最大だった。

【出生】出生数は103万3000人、出生率(人口千対)は8.2と推計。

【死亡】死亡数は124万5000人、死亡率(人口千対)は9.9と推計。主な死因の死亡数は、1位悪性新生物36万1000人、2位心疾患19万6000人、3位肺炎12万3000人、死産数2万5000人。死産率は0.6と推計。

【自然増減】自然増減数は23万7000組、離婚率(人口千対)は1.88と推計。

【結婚】結婚件数は66万9000組、離婚率(人口千対)は5.3と推計。

【離婚】離婚件数は23万7000組、離婚率(人口千対)は1.88と推計。

【自然増減】自然増減数は23万7000組、離婚率(人口千対)は1.88と推計。

第6回 男女の生活と意識に関する調査

本会が実施、少子化の進行に着目

表1 国の少子化対策についての意見

	妊婦健診の公費負担(14回程度受けられる)	出産育児一時金制度(出産に際して原則42万円支給)	不妊治療に関する経済的負担の軽減	保育所待機児童の解消	男性の育児休業の取得促進
総数	1,306	1,306	1,306	1,306	1,306
とても有効である	53.4	58.2	45.7	48.2	37.2
ある程度有効である	29.8	28.5	29.4	29.0	29.6
どちらともいえない	10.0	7.6	16.5	14.5	19.5
あまり有効ではない	2.5	1.8	3.1	3.4	7.2
まったく有効ではない	1.1	1.1	2.1	1.8	3.4
無回答	3.1	2.9	3.1	3.2	3.1
(再掲)有効である	83.2	86.7	75.1	77.2	66.8
(再掲)有効でない	3.7	2.8	5.2	5.1	10.6

この調査は、全国の16～49歳の男女3000人を対象とし、層化二段無作為抽出法(5面参照)として実施された。調査期間は、(1)日常生活や考え方について、(2)結婚や子育ての意識に関する質問、(3)意識や知識について、(4)対象者自身の性行動について、(5)初めてのセックス(性交渉)について、(6)現在の避妊の状況について、(7)低用量ピルについて、(8)人工妊娠中絶について、(9)国の少子化対策について。

●調査員による訪問留置訪問回収
本調査を実施するに際しては、個人のアライバシーに十分留意しつつ、層化二段無作為抽出法という調査手法を用い、2012年9月1日現在満16～49歳の男女個人3000人を対象として、同年9月13日(内)～9月30日(日)に実施。その結果、長期不在、転居、住居不明

この調査は、全国の16～49歳の男女3000人を対象とし、層化二段無作為抽出法(5面参照)として実施された。調査期間は、(1)日常生活や考え方について、(2)結婚や子育ての意識に関する質問、(3)意識や知識について、(4)対象者自身の性行動について、(5)初めてのセックス(性交渉)について、(6)現在の避妊の状況について、(7)低用量ピルについて、(8)人工妊娠中絶について、(9)国の少子化対策について。

公益性を有する事業として本会が実施した「第6回男女の生活と意識に関する調査」が完了した。2002年度からスタートした本調査は、2年ごとに実施されているもので、2010年までの5回分は厚生労働科学研究費補助金による研究事業の一環として行われてきたが、今回は本会が独自に実施した。避妊法の選択、人工妊娠中絶に対する意識や実施状況など毎回継続的に行われている調査に加えて、今回の調査では、わが国における少子化の進行に着目し、国が取り組んでいる各種少子化対策への国民の評価、国民の結婚観や婚外子に対する意識などの設問を新たに追加興味深い結果を得た(4・5面に詳細)。 (本会専務理事・家族計画研究センター所長 北村 邦夫)

よって調査票を手渡すことができなかった者が除く2687人のうち有効回答数は1306人(男性610人、女性696人、48.6%であった。回答者の平均年齢は34.1歳、女性34.1歳、男性34.1歳、過去5回の回答率は2002年の調査の52.4%以降、52.7%、51.9%、54.1%、57.2%であり、今回は最低であった。その理由としては、国からの支援が得られなかったために、調査対象となった市区町村での住民基本台帳閲覧が困難であったため、調査対象となつた国民からも十分な協力が得られなかったことが考えられる。

本調査を実施するに際しては、個人のアライバシーに十分留意しつつ、層化二段無作為抽出法という調査手法を用い、2012年9月1日現在満16～49歳の男女個人3000人を対象として、同年9月13日(内)～9月30日(日)に実施。その結果、長期不在、転居、住居不明

実施している代表的と思われる少子化対策(1)妊婦健診の公費負担、(2)出産育児一時金制度、(3)不妊治療に関する経済的負担の軽減、(4)保育所待機児童の解消、(5)男性の育児休業の取得促進)について国民の意見を聞いた。結果、「有効である」との回答が66.8～86.7%であり、高い支持を得ていることがわかった(表1)。

支持率を性別年齢階級別にみると、制度の恩恵を直接受けると思われる年齢層で高い傾向にある。例えば、(1)については20～34歳の女性で9割を超えているものの、(2)については15～19歳の男女とも7割程度、支持率が7割近くあるとはいえず、(3)では男女差が顕著となっている。とりわけ、(3)の評価が男性では低い。(4)については、男性61.1%、女性71.7%の支持率であるが、女性の35歳以上は5割程度とあらゆる制度の中でも最も低い。

(4面へ続く)

編集者 田島

▼エイズ蔓延による医療費増大等の懸念から、保険者・企業・地域が連携し、1995年から数年間、重点的に実施された。職場指針やマニュアル、研修、啓発教材、感染者の手記の発行等、さまざまな取り組みが行われた。当時は、健康結果の所見の有無で、通知票の色が違つたこともあったという。この現状が問題視され、プライバシー保護の改善等の成果があった。

▼しかしわが国では、いまだにエイズ患者・HIV感染者の増加傾向が止まらない。NPO団体の調査によれば、7割以上の患者・感染者が「感染を知られると不当な扱いを受けるのではないか」と不安を持っているという。

▼1988年世界保健機関(WHO)は、患者や感染者への差別の撤廃などを目的に、12月1日を「世界エイズデー」と定めた。この年、国際労働機関(ILO)は「職場」とエイズに関する声明を、さらに1995年厚生労働省は、「職場におけるエイズ問題に関するガイドライン」を発表。これらの中で、「エイズ教育の必要性」や「HIV検査は労働衛生管理上必要である」と、さらに「HIVに感染している元気の労働者は、他の同僚の労働者と同じように、心身の調子を悪い労働者は、他の病気をもち、労働者と同等に扱われる」と明記されている。これを私たちは忘れてはならない。

▼HIV/エイズの治療は進歩し、余命は格段に延びている。しかし社会における関心は、年々希薄になっていないだろうか。20代以下の年齢層は「エイズパニック」を知らない。若い世代からのエイズ予防教育は、早期発見、早期治療、感染の拡大防止に結びつく。健やかで心豊かに生活できる、活力ある社会を実現するために、包括的な環境の整備と予防対策の実施が求められる。(HIV)

自分のリズムで生きる

Living by your own rhythm.

このサイトは、低用量経口避妊薬(OC)についての正しい知識を身につけていただくことを目的としています。



低用量経口避妊薬(OC)

ウェブサイト

OCのことはもちろん初めての受診や女性の健康など、関連情報も掲載しています！
<http://www.oc-rizum.jp>

OCケータイ情報

会員登録(無料)することでOCの服用時間をお知らせするメールが受信できます！
<http://oc-cycle.jp>



情報閲覧・会員登録無料！※パケット通信用料は別途必要になります。



製造販売元【資料請求先】
MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
<http://www.msd.co.jp/>

2010年10月作成
10-12-MAV-10-JF05-J

活動報告

エイズ予防啓発活動

—全国同時ピアを開催して

U-COM (JFPA若者委員会) 委員長 粉井 奈穂美



東京・渋谷モヤイ像前で配布

Condomiumを街頭配布

私たちU-COM (JFPA若者委員会) は、全国のピア子に呼びかけ、全国同時開催のエイズ予防啓発活動を企画し、実施しました(北海道、岩手、秋田、福島、栃木、東京、兵庫、鳥取、愛媛、熊本、鹿児島)の11団体が参加)。全国の若者がエイズの正しい知識を知り、 Condomiumを正しく使用し、自分自身や大切なパートナーを守ってほしいという思いから、 Condomiumと性感剤について、ミニブックなど1セットにし、街頭配布を行いました。

ツイッターで一体感

当日は、全国各地に強い寒気が襲い、北海道や東北では激しい雪になるほどの寒さでした。しかし、ツイッター上では「栃木はきつまで雪でしたが、やみましたー!が暖かいですー!」愛媛は「寒いけど、活動が楽しかったー!」と盛り上がり、活動がより意欲的に感じました。



進まないこともありました。また、 Condomiumが入っていないとわかるように、道端やゴミ箱に袋ごと捨てられることもありました。しかし、自分たちの思いを胸に、自信をもつ

マンション地域の子育て支援の新しい取り組み 「赤ちゃんとランチ」

赤ちゃんと暮らし研究会 (東京・江東区) 代表 開業保健師 渡邊 玲子



「はじめまして!何か月ですか?」あか
くらはこ さん かわいい 出会い を お手 伝 い
して います
「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

▽地域のおしゃれなカフェで開催
「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

立ち止まって受け取り、中身を見て話しかけてくださる方もいました。雨が降っていましたが、ゆっくりに足をどめて話すと、はあまりできませんでした。ですが、多くの若者がエイズについて知り、関心をもつ良い機会になったと感じます。また、若者の中には「友人にも渡したいので、もっとください」という声も多く聞かれました。この街頭配布をきっかけに、若者の間で性感染症の正しい知識がど

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。



赤ちゃんと暮らし研究会 (東京・江東区) 代表 開業保健師 渡邊 玲子

「子育て」は文化であり、本来、人と人のコミュニケーションのなかで、子育てのノウハウや喜び、大変さを共有する人としての営みです。

「赤ちゃんとランチ」は、「赤ちゃんとランチ」の仲間とランチをしながら、子育ての悩みや、子育ての楽しさを語り合える場です。

広げたい若者の活動

結果としては約2時間ほどで500セットを配布することができました。終わってメンバーからは、「街頭配布ではやはり受け取ってもらえることが少なく、その背景にはエイズについて日頃からの関心が低い点があるのではないか」と感じました。今回の活動がエイズについて関心や興味をもつ第一歩となれば、いい気持ちにもなり、今後の活動に向けての大きな励みです。

本会役員紹介

- 理事 三橋 裕行 (みつはし ひろゆき)
- 副理事 二橋 裕行 (ふたはし ひろゆき)

女性のライフサイクルとメンタルヘルス

④

月経周期の心身の不調(2)

本会理事・日本女性心身医学会名誉理事長 玉田 太郎

女性のリプロダクティブヘルスへの影響

前回、女性には初経がはじめる閉経まで続くこと、来て2〜3年から数年、おしりししました。腹らいつついろいろな身体症状、精神症状が現れ

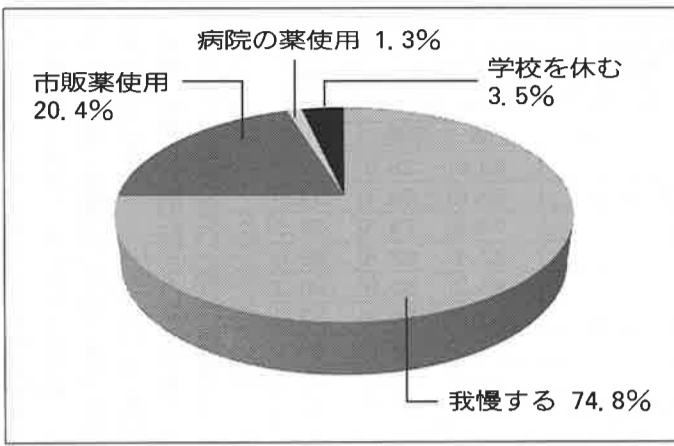


図1 日常生活に及ぼす月経の影響 高校生4047人の調査

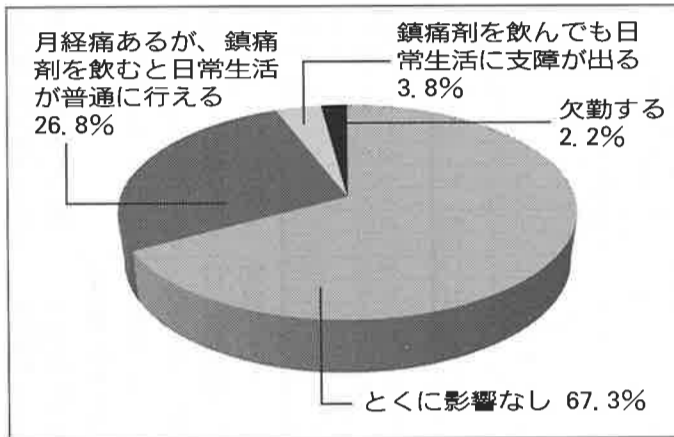


図2 日常生活に及ぼす月経の影響 20〜49歳の一般女性4230人に対するアンケート調査

憂うつ、無気力などの精神症状が15〜35歳くらい若いの月経時に多く見られ、一方、イライラ、怒りっぽくなる、などの精神症状が、25〜45歳の女性の月経前に多く見られます。 これらが女性の生活の質をどの程度障害しているのか？ 男性にはなかなかに理解できません。私も仕事柄、看護師、助産師、介護職員など、多くの女性と一緒に働いた経験があり、ときには管理職的な立場にもありましたが、ごく一部はつきりした婦人科疾患を持つている女性を除いて何パーセントの人が痛みやだるさなどを我慢して働いており、そのうち何パーセントがいわゆる生理休暇などを取っていたのか、全く分からないまま過してしましました。師長さんなどに訊いても、月経中で辛い顔をしていたり、痛いと眠いとかこぼす人はいても、休む人はほとんどいないという答えでした。

このままで、いろいろな年代や有職、無職の女性が月経に伴う症状でどの程度日常生活に支障を受けているかというデータはあまりありませんでした。 一般女性(20〜49歳、勤労女性および専業主婦)については、東大武蔵野医学部産科婦人科の谷教授を主任研究者とする厚生科学研究班の報告があります(文献2)。その結果を図2のようにまとめさせていただきました。とくに影響なしという値段は決して高くはありません。でも少しでも多くの方に読んでいただくべく、学校の図書館に置いてほしいものです。(神奈川県立がんセンター 婦人科部長 中山 裕樹)

の女性と一緒に働いた経験があり、ときには管理職的な立場にもありましたが、ごく一部はつきりした婦人科疾患を持つている女性を除いて何パーセントの人が痛みやだるさなどを我慢して働いており、そのうち何パーセントがいわゆる生理休暇などを取っていたのか、全く分からないまま過してしましました。師長さんなどに訊いても、月経中で辛い顔をしていたり、痛いと眠いとかこぼす人はいても、休む人はほとんどいないという答えでした。

話題の書

『卵巣の病気を座右の書』

産婦人科医であれば誰もがご存知の上坊敏子先生が、また新しい本を世に出されました。出版は異なりませんが、2008年に上梓された『子宮の病気』の続編として『卵巣の病気を』を出版されました。

卵巣という臓器を意識したことはいらないと思いたす。しかし、『卵巣』こそが、女性自身にとっても、生命を次の世代につなぐためにも、なくてはならない臓器です。と著者自身が言っているように、女性が女性たる所以の臓器なのです。意識しづらい臓器でありながら、腫瘍のみならず、ホルモンの不具合など、な

かなかなか概念の病気のオンパレードです。しかし、本書の上坊先生の口調は概して穏やかで、女性ならではの心配りが随所に見られています。平易

よいでしょう。上坊敏子先生は1973年に名古屋大学医学部を卒業のち、北里大学に勤務され、一貫して婦人科腫瘍の第一人者として活躍して目に入れても痛く

卵巣の病気

月経の不調から卵巣がんまで

上坊敏子著 講談社

い臓器です」と著者自身が言っているように、女性が女性たる所以の臓器なのです。意識しづらい臓器でありながら、腫瘍のみならず、ホルモンの不具合など、な

て来られました。同大が、専門家から見ても大切なことは余り載っていません。最新の情報はあふんだけれど、まさに上坊先生の見識が溢れていると言つて

ないお孫さんに囲まれて、まさにキャリアウーマンのお手本と言える経歴をお持ちです。さて、本書を読まれる方は、多分ご自分が卵巣の病気にかかって



『卵巣の病気』 上坊敏子著 講談社

いう女性が67.3%で、3分の1の女性はなんらかの影響を受けています。鎮痛剤を飲んでも日常生活に支障が出るという人が6%、そのうち2.2%が欠席してしまっています。一方、月経痛のため1日でも仕事を減らしたり、休んだりしたことがありませんか」という質問では、27.3%の女性が「ある」という回答でした。さて、図1(高校生)と図2(成人)を見比べると、全体としてかなり似ています。もちろん二つだけの調査で結論は出せませんが、今後の調査の際の参考になるかと思われます。

を申請する人などもあるそうです。 かつて育児休業の取得率を調べたことがありますが、取得率を上げる第一の因子は、育児休業制度の有無にかかわらず「利用しやすい雰囲気がある」でした。生理休暇の取得にも、きわめて日本的なメカニズムが働いているように思いますが、それでも今回お示しした調査成績から見ると現在の取得率は低すぎると感じます。 ほんとうに必要な方が生理休暇を取れるような社会が望まれます。

平成25年度「読者モニター」募集中

あなたの声を紙面に生かしませんか

本紙編集部では、平成25年度の「読者モニター」を募集中です。モニターの方には毎月本紙を無料で送付し、同封のアンケートに回答いただきます。アンケートで寄せられた貴重なご意見は、紙面づくりに活用させていただきます。募集要項は次の通りです。奮って応募ください。

◆読者モニター募集要項

- 応募資格：保護・医療・教育・福祉等に携わる方
- モニター期間：平成25年4月1日〜平成26年3月31日
- 募集人数：若干名(応募者多数の場合は職種等を考慮して選考)
- 応募方法：編集部宛に①お名前②職種③連絡先(自宅または勤務先のEメールアドレス)④本紙の郵送先⑤志望理由をEメールでお送りください。
- 【謝礼】モニター期間終了後、①本会主催セミナーへの招待、または②本会教材備品の進呈
- 【応募締切】2月28日(木)
- 問合せ：応募先編集部 henshu@jipa.or.jp

また、「月経中の自分の状態が周囲から理解されていない」と答えた人が全体の4割を超えており、月経に関する社会的な啓発の必要性がうかがわれたと報告されています。経産回数と年齢から見ると、同じ経産回数でも年齢とともに月経痛が減る傾向があります。

「使用率は、生理日の就業が著しく困難な女性が休暇を請求したときは、その者を生理日に就業させてはならない」とあります。この規定は日本独自のものですが、使用者側・労働者側それぞれ多くの問題があります。この休日は会社の就業規定で有給を保証さ

意識に関する調査

表2 あなたにとって結婚にはどのような利点があると思うか。結婚の経験がない方はイメージで、「とても利点がある」「ある程度利点がある」と回答した割合 (北村邦夫:「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	全体	男性	女性
経済的に余裕がもてる	43.8	28.0	57.6
社会的信用を得たり、周囲と対等になれる	55.6	56.4	54.9
精神的な安らぎの場が得られる	76.6	78.5	74.9
愛情を感じている人と暮らせる	82.4	82.8	82.0
自分の子どもや家庭をもてる	88.2	85.9	90.2
性的な充足が得られる	43.8	50.8	37.6
生活上便利になる	50.3	52.8	48.1
親から独立できる	48.9	45.6	51.9
親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	68.5	65.7	70.8

表3 あなたは、結婚していないカップルが、子どもを持つことに対して、どのように感じますか。(○は1つ) (北村邦夫:「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	合計	抵抗感がまったくない	抵抗感があまりない	抵抗感が少しある	抵抗感が大いにある	不明	(再掲)抵抗感がない	(再掲)抵抗感がある
総数	1,306	14.0	24.8	43.5	16.2	1.5	38.8	59.6
男性	610	16.9	25.1	39.3	16.9	1.8	42.0	56.2
16-19歳	47	12.8	29.8	40.4	14.9	2.1	42.6	55.3
20-24歳	65	16.9	26.2	32.3	18.5	6.2	43.1	50.8
25-29歳	85	22.4	21.2	40.0	16.5	-	43.5	56.5
30-34歳	97	22.7	26.8	32.0	14.4	4.1	49.5	46.4
35-39歳	110	12.7	28.2	40.9	18.2	-	40.9	59.1
40-44歳	115	13.9	24.3	44.3	16.5	0.9	38.3	60.9
45-49歳	91	16.5	20.9	42.9	18.7	1.1	37.4	61.5
女性	696	11.5	24.6	47.1	15.5	1.3	36.1	62.6
16-19歳	58	10.3	22.4	51.7	12.1	3.4	32.8	63.8
20-24歳	79	16.5	22.8	35.4	25.3	-	39.2	60.8
25-29歳	79	5.1	20.3	50.6	24.1	-	25.3	74.7
30-34歳	88	13.6	27.3	45.5	12.5	1.1	40.9	58.0
35-39歳	141	13.5	25.5	49.6	10.6	0.7	39.0	60.3
40-44歳	151	10.6	24.5	51.7	10.6	2.6	35.1	62.3
45-49歳	100	10.0	27.0	42.0	20.0	1.0	37.0	62.0

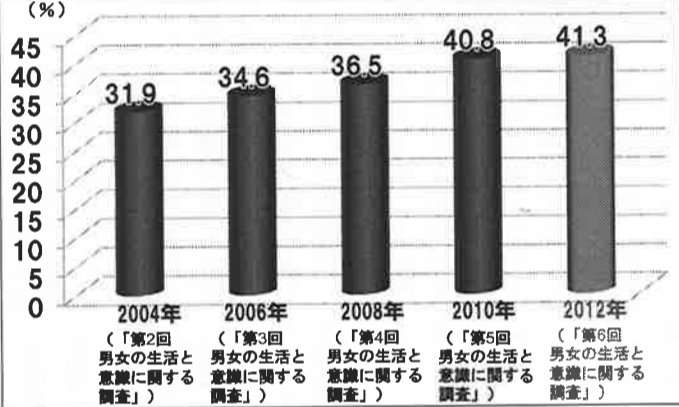


図1 婚姻関係にあるカップルで進むセックスストレス化 (北村邦夫:「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

表4 セックスに対して積極的になれない理由 (北村邦夫:「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	婚姻関係あり		婚姻関係なし		
	男性	女性	男性	女性	
合計	476	117	166	101	90
相手がいない	31.5	4.3	1.8	79.2	68.9
仕事で疲れている	15.5	28.2	19.3	2.0	6.7
面倒くさい	13.0	12.0	23.5	4.0	5.6
出産後何となく	11.8	17.9	20.5	-	1.1
セックスより趣味等楽しい事がある	3.4	1.7	4.8	4.0	2.2
家が狭い	2.5	6.0	1.8	2.0	-
家族(肉親)のように思えるから	2.1	2.6	4.2	-	-
妊娠することへの不安が強い	1.5	0.9	1.2	2.0	2.2
相手の一方的なセックスに不満ある	1.1	0.9	1.2	1.0	1.1
セックスに際して痛みがある	1.1	-	1.2	-	3.3
勃起障害に対する不安がある	0.8	3.4	-	-	-
その他	14.7	19.7	20.5	4.0	8.9
無回答	1.1	2.6	-	2.0	-

表5 セックス(性交渉)をすることに、「関心がない+嫌悪している」割合の推移 (%) (北村邦夫:「第6回男女の生活と意識に関する調査」2008、2010、2012)

	2012年	2010年	2008年
男性	17.7	17.7	10.4
16-19歳	29.8	36.1	17.5
20-24歳	24.6	21.5	11.8
25-29歳	14.1	12.1	8.3
30-34歳	13.4	5.8	8.2
35-39歳	11.8	17.3	9.2
40-44歳	19.1	18.4	13.1
45-49歳	19.8	22.1	8.7
女性	46.3	48.4	37.0
16-19歳	60.3	58.5	46.9
20-24歳	31.6	35.0	25.0
25-29歳	35.4	30.6	25.0
30-34歳	37.5	45.8	30.4
35-39歳	44.7	50.0	35.7
40-44歳	55.0	55.6	47.5
45-49歳	55.0	58.6	45.4

「結婚や子育てに対する考え方」

「結婚や子育てに対する考え方」

「結婚や子育てに対する考え方」

「セックスストレス化がさらに進行」

「セックスストレス化がさらに進行」

「セックスストレス化がさらに進行」

「若年男性の「草食化」は20代に移行」

「若年男性の「草食化」は20代に移行」

「若年男性の「草食化」は20代に移行」

「20代の男性をさらに分析する」

「20代の男性をさらに分析する」

「20代の男性をさらに分析する」

「結婚や子育てに対する考え方」

「結婚や子育てに対する考え方」

「結婚や子育てに対する考え方」

「セックスストレス化がさらに進行」

「セックスストレス化がさらに進行」

「セックスストレス化がさらに進行」

「若年男性の「草食化」は20代に移行」

「若年男性の「草食化」は20代に移行」

「若年男性の「草食化」は20代に移行」

「20代の男性をさらに分析する」

「20代の男性をさらに分析する」

「20代の男性をさらに分析する」

「結婚や子育てに対する考え方」

「結婚や子育てに対する考え方」

「結婚や子育てに対する考え方」

働く女性の健康管理

本会理事/職域保健・産業看護塾主宰/東京工科大学産業保健実践研究センター客員教授

飯島美世子

産業看護の
半世紀と
これからの
展望②

1. 混雑した通勤電車と働く女性

昭和30、40年代の東京近郊の通学・通勤時間帯の電車は猛烈な込みようで、冬の着ぶくれの時は乗客を押し込むアルバイトの「押し屋」が存在しました。それは国有鉄道の国電をもじって「酷電」といわれるほどの混雑でした。少々電車が遅れ気味ともなれば、その混雑ぶりに拍車がかかりました。筆者は通学の際に気分が悪くなると、混雑の中からやっと抜け出して下車したら、持っていた折り畳み傘は中央の骨一本だけに落ちていたことを経験しています。

2. 生理休暇をめぐる

また、当時は、月経に関する話題が尽きませんでした。労働基準法第67条に「生理日の就業が著しく困難な女性に対する措置」として「使用者は、生理日の就業が著しく困難な女性については、就業が著しく困難な女性を就業させない」とあり、本来「就業が著しく困難な女性」という条件はありますが、その消化率は有給が無給かによって大きく差があり、時

には既得権化していることとありました。正常な月経周期や期間、月経の量、月経不順、月経前緊張など医学的知識を得るのに私は必死で、一昨年亡くなった松本清一先生の論文が頼りでした。

今のように月経困難症の治療法がない時代でしたから、若い働く女性の健康管理として貧血とともにその対応が欠かせませんでした。生理日の就業が困難とは月経痛ばかりでなく、トイレに行きたい時になかなかその場を離れることができない、といったこともあり、後に就職した企業では観光バスのガイドさんがかかりました。彼女たちは2日間の有給の生理休暇が与えられていま

3. 女性労働者と性差

昭和40年代に勤務した音響機器製造業の事業場には、有害物の取り扱い業務がありました。業務が低濃度、低騒音レベルで法規制以下でした。しかし、今後は低濃度の長期暴露の健康影響が課題になるであろうかと、当時の健康管理はその方向で取り組むこととし、有機溶剤の暴露評価となる尿中代謝産物の測定を実施し始めました。

今では特殊健康項目に尿中代謝産物の測定が含まれていますが当時としては先進的取り組みでした。実施にあたっては暴露後の尿中代謝産物濃度の時間的推移やそれを踏まえての現場での適切な採尿時間など、基礎的な勉強が求められたものでした。その中で、有機溶剤の人への影響には性差があるという論文に出会いました。定かに覚えてい

4. 深夜業に従事する女性の規制緩和をめぐる

従来、女性は一部の職種を除いて深夜業務は禁止されていましたが、平成11年4月以降、撤廃されました。最近23時過ぎのタクシードライバーの発散する場所のうち指定された業務ですが、女性労働基準規則の改正により、平成24年10月からは女性労働者の就業が禁止される業務の範囲が拡大されました。前述したように、有害な物質が

5. 平成24年10月以降の規制をめぐる

女性労働基準規則の改正により、平成24年10月からは女性労働者の就業が禁止される業務の範囲が拡大されました。前述したように、有害な物質が発散する場所のうち指定された業務ですが、男性にとっても改善が望まれる業務です。女性の就業を禁止することが解決策ではないことを肝に銘じて、改善を願うものです。

昭和31年(1956)からの10年間

(前号の続き)
日本家族計画普及会(現在の日本)は、昭和34年(1959)に母子健康センターが活動を開始した当初から、センターは分娩介助だけでなく、家族計画指導も含めた母子保健指導の場としての必要性、重要性があること指摘し、施設の有効活用をはかるためのセンター連絡協議会の設立を主張、厚生省にも働きかけた。

昭和37年(1962)2月5日、機関紙の取材も兼ねて埼玉、千葉、神奈川県3県の11センター設置市町村の担当課長による座談会を開催した。そこで異口同音に出てきたことは、「町村行政でこんなに喜ばれた仕事はない」「助産は病院よりサービスがよいくらいでも好評」

家族計画運動の歩み

本会会長 近 泰男

し、厚生省、全国町村会、国保中央会等の責任者とその実現に向けての協議をおこなひ、センターの研究、指導を眼目に「母子健康センター中央会」(仮

小児衛生部長林路彰、母子愛育会小児科部長宮崎叶、厚生省人口問題研究所第一科長藤崎信男、神奈川県立母子保健センター所長高口保明、日本家族計画普及会代表理事国井長次

3月30日には、以上の協議の結果を受けて厚生省母子衛生課(出席者は小西宏母子衛生課長、山田昇事務官補佐、宗像文彦技官補佐)と前述の準備委員との協議がおこなわれた。母子衛生課では主管課としての立場からこの団体の設立には重大な関心を示し、慎重な準備の進行を希望した。特に各県のセンター設置市町村の連絡協議会をつくり、それを統合して全国団体の骨組みをつくることになった。

母乳育児のトラブル対応を学ぶ

母子保健指導員研修会開催

本会母子保健指導部で事務所のある東京・市ヶ谷の保健会館新館において、毎月第2火曜日(12月11日)に「母乳育児に関するトラブル対応」をテーマに第4回「母乳育児指導員研修会」を開催した。

本研修会は、保健師、助産師等を対象に、本会柳澤薫氏を講師に招き、日頃から、育児相談や新生児訪問等で母親の悩みを聞く保健師、助産師ら約40人が参加した。

柳澤氏は、母乳不足を訴えて相談所を訪れた母親の

約8割は、実際には違っていたと説明。授乳後に離すと泣く乳児の様子や、周りからの「足りないのでは」との助言に悩む母親が多いと述べた。また最近、インターネットでわからないことを調べてみて、難しい質問を寄せる相談者も多い。柳澤氏は、育児相談や新生児訪問等で母親の悩みを聞く保健師、助産師ら約40人が参加した。

柳澤氏は、母乳不足を訴えて相談所を訪れた母親の



また「母親の約4割は、支援がなくても母乳育児はうまくいく。残り5〜6割に、何らかのトラブルが生じる」とし、こうした支援を必要とする母親に適切なケアが行

海外情報クリップ

CDCCでは人工妊娠中絶実態調査より
 米国疾病対策予防センター(CDC)

CDCCでは人工妊娠中絶(以下「中絶」)の定点調査を1969年から定期的に実施しています。1973年に米国全州で中絶が合法化されてから

米国の人工妊娠中絶実態調査より

米国疾病対策予防センター(CDC)

施行数は増え続けました。1980年代のピークから減少傾向に転じ、2009年では対前年比5%の過去最も大幅な減少となりました。全体の過半数を20~29歳の年齢層が占めているため、主にこの年齢層の減少が全体の傾向を反映しています。しかし40歳以上の層を除く全ての年齢層でも減少がみられました。

さらに分析を進めて15~19歳の年齢層でみたところ、2009年は対前年比8%の減少となっており、これは同年齢層の出産件数(生児)の減少率6%を上回っています。意図しない10代の出産と中絶の両方が減少しているという点は、この層全体の望まない妊娠が減ってきていることを意味します。

また、中絶を受けた女性のうち、妊娠8週以内で施行したケースは8週を過ぎたケースに比べて増加しており、全体により早い段階で中絶が施行される方向にシフトしていることもわかりました。この背景には、高度の妊娠検査法の開発や、経膈超音波検査の普及などにより、妊娠6週までに診断されやすくなったこと、ミフエリス(日本では未承認)という新しい薬剤が使用できるようになったことが挙げられています。ミフエリスは2000年9月にFDAで承認

され、米国産婦人科学会は、妊娠の早い段階での薬剤治療(シフト)していきながら減少が続いていると報告しています。

また、中絶を受けた女性のうち、妊娠8週以内で施行したケースは8週を過ぎたケースに比べて増加しており、全体により早い段階で中絶が施行される方向にシフトしていることもわかりました。この背景には、高度の妊娠検査法の開発や、経膈超音波検査の普及などにより、妊娠6週までに診断されやすくなったこと、ミフエリス(日本では未承認)という新しい薬剤が使用できるようになったことが挙げられています。ミフエリスは2000年9月にFDAで承認

ホルモン避妊法の中絶後の課題

カリフォルニア大学

経口避妊薬をはじめとするホルモン避妊薬の使用を開始した若年の女性にかなりの割合で1年以内に中絶してしまうという状況は同じです。米国でもこの状況は同じです。それは、中絶後はどうしているのか、それが目下の課題となっています。

米国カリフォルニア大学が行った調査によれば、初めてホルモン避妊薬の使用を開始した15~24歳、約1100人の若年女性のうち、1年後も使用を継続していたのは40%だけでした。開始当

初、全体の36%の若年女性にはコンドームのみの避妊で済んだ。しかし、ホルモン避妊薬を開始してから3分の1の女性はコンドームの使用をやめてしまっています。その後、ホルモン避妊薬を中止あるいは中絶すると、このうち再びコンドームを使用していた女性はわずか46%であり、それ以外は避妊自体をしていないという結果を報告しています。

この調査で対象にしたホルモン避妊薬の種類は、経口避妊薬、避妊パッチ(貼付剤)、避妊リング、避妊注射薬(メドロキシプロゲステロンデポ)などです。

これらの結果から、医療提供者はホルモン避妊薬を始めるときの導入指導だけでなく、いかに継続させるかという点に加えて、中絶した場合の対処法についてもアドバ

思春期の性アイデンティティ(性別の自己認識の一致性)について

米国小児科学会 他

電波状況などから相談環境の変化を感じ取っています。手軽に相談できるようになった時代からいって、相談員の資質の向上を怠るわけにはいきません。これからも精進の日々が続きます。

(思春期・FPOホットライン相談員 田中桃代)

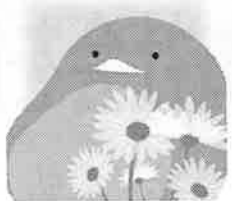
最近では携帯電話を使って相談される方が圧倒的に増えています。駅の放送、足音、周囲にいる仲間の声、時に途切れる

あるいは女の子が自分を性アイデンティティについて一般向けQ&Aを作っています。その中で一言して言われていることは、他人の性アイデンティティを受けとめて認めること、つまり、ゲイ(男性同性愛者)、レスビアン(女性同性愛者)、あるいはトランスジェンダー(自身の性別に対する心の認識と身体型が異なる)などの人たちを一般社会の中で受け入れなければならぬという考えです。

その背景には、少数派であるこれらの人たちに強い嫌悪感を持っている人もいます。例えば、ホモセクシュアルを嫌い、恐怖観念をもつ人はホモフォビアと呼ばれています。ただし、このようなフォビアの人々は減る傾向にあり、近い将来にはこのような先入観からくる差別がなくなることが期待されています。

RC(長期作用型リバーシブル避妊法)を選択するのにも良い方法ではないかと著者は提唱しています。

Goldstein RL et al, J Adol Health, Vol.52, Issue 1, 2013, 77-82



客観的に自分自身を分析することはなかなか難しいです。今回は「原稿当番」をきっかけに、自分の相談対応について振り返る機会を得た相談員さんからの報告です。自分自身を題材に文章を書くのには勇気がいったのではないのでしょうか。

 新人の頃、先輩に言わ



診療は毎週火、金、第2土曜

「相談料はいただきたくないけれど、通話料金は相談者本人が払っているのだから第一声の「もしもし」は必要ない」という言葉を今でも覚えています。その時間さえも料金は発生しているという理由です。そういう場合は、相談内容を確認する質問をする中で、「一生懸命」と私が思い込んでいた「」になり長い時間をとってしまうこともありました。

あれから数年経った今、私の電話対応は成長したのだろうか、少し振り返ってみようと思えます。

①相談者が発するわずかなキーワードだけで質問を決めつけることがなく

定番の相談に「あなたはどっと思えますか。」と少し余裕をもって対応出来るようになりました。相手を決めつけることがなく、手に向かき尋ねるといって、その答えを受け止める責任が伴います。

③経験を重ねることによる「慣れ」も技術向上の必要な要素ではないかと思えます。相談員を続ける中でいろいろな引き出しを増やすことができたように思えます。失敗を書き留めて同じ間違いを繰り返さないことも経験の一つです。

④反省点もあります。会

電話相談

●東京都女性のための健康ホットライン 03-3266-7700

●思春期・FPOホットライン 03-3266-7700

●東京都不妊不育ホットライン 03-3266-7700

7455※火曜日のみ

診療予約・問合せ 03-3266-7704

クリニックHP http://www.jpfa-clinic.org/

◆原稿募集◆本紙に活動や研究成果を発表しませんか。投稿規定等、詳しくは編集部までお問い合わせください。 henshu@jpfa.or.jp

一人でお悩んでいませんか。

更年期以降には、女性ホルモン(エストロゲン)の分泌量低下に伴い、デリケートゾーン(陰周部)の乾燥による違和感・不快感に悩んでいる女性は少なくありません。そのような方々のために開発されたこの専用保湿ゼリーは、日常的ケアで爽やかライフをお届けします。

陰周辺の乾燥による“つらい不快感”のケアに!

JFOA メノケア® モイストゼリー (保湿液)

●無着色・無香料
 ●殺菌処理済
 ●パラベン無添加
 ■50g入 1,575円(本体価格1,500円)

発売元 JFOA 一般社団法人 日本家族計画協会 TEL 03-3269-4727

製造販売元 POLA PHARMA 株式会社 ポーラファルマ TEL 0120-12-2721 (通話料無料)

避妊教育ネットワーク

リレートーク 35



秋元 義弘

若者たちの中絶率の高さに愕然

中学のころ、河野美代子先生の著書を読み感動し、その後産婦人科医となつて若者の若者たちの中絶率の高さに愕然とし、10年を過ぎたころ、北東北で細々と活動していた自分でした。ある年の学会の懇親会から流れ

た3次会の席にて北村邦夫先生たちと大いに語り、呑み、歌った夜、10年が、未だに当院しかありません。

岩手では平成8年(1996)ころまでは全国でも有数の中絶率の高い県でした。この対策として、県内の医師会、産婦人科医会の先生方、行政、教育関係者らと連携し、岩手型のシステムをなんとか構築している途中です。県内各校から

頼られるライフスキル講演以外に、妊婦メンタルヘルス支援も岩手県内の周産期医療機関、行政を全て巻き込み活動を行うとしておりました。あの大震災が岩手を襲いました。

現在の勤務地の前は被災地に長く勤務しており、知己も多く、なんとか支援を、と思いはしても、四国4県より広い岩手において全てを廻り支

援するということがどうやっても現実では難しく、無力感に苛まれておりました。そんな中、フェイスブック、ツイッターを介した支援のネットワークを全国の方々からのご支援で作り上げる

ことができ、現在までに1000人を超す物資の女性、妊産婦、若者への支援を継続しております。ジョイセフ、この紙面を

ご覧の先生方からの物心両面に渡りご支援いただき、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

まだまた復興とは遠いところに被災地、避難者はおかれています。しかし、女性と若者が元気な街は必ず元気な街になります。そのための専門職が自分の役割、と考えております。

産婦人科医療の最前線に立ち続けながらの活動は、同僚、スタッフにも大変な負担を強いてしまっております。しかし、現場でなければつかめない、実感できない実状は、非常に大きなものです。

臨床現場と、理念と、それを伝える教育現場との距離を縮めること、も、こうした立場に立つ人間の仕事の一つだと最近強く感じています。

高村光太郎に「若手の人沈深牛の如く」と詠われたように、ゆっくりではあつても着実に、産婦人科医として、思春期に携わってきた者として、岩手の子どもたちが健康やかに育っていくような社会システムを、構築していきたいと存じます。

【略歴】1990年自治医科大学卒業。医学博士。岩手県立二戸病院産婦人科部長。岩手県立高田病院、大船渡病院産婦人科部長を経て現勤務。産婦人科認定医、麻酔科標榜医、日本性感染症学会認定医。日本思春期学会理事、日本性感染症学会東北支部副支部長。

【厚労省では毎年5月5日から1週間の「児童福祉週間」の標語を公募。平成25年度の募集には、全国から6713作品の応募があった。

君がいる ただそれだけでうれしいよ 児童福祉週間 標語決まる

お申し込みのし忘れ、うっかり防止のために、定員・締め切りが間近になったセミナーは改めてご案内します。最近では、本会の主催するセミナー以外でも、専門職の方にとって有益なセミナー情報であれば、随時配信しております。

女性と若者を支援する地域社会を目指して

岩手県立二戸病院(岩手県二戸市) 秋元 義弘



胎動を感じて



赤ちゃんを抱っこ

性、妊産婦、若者への支援を継続しております。ジョイセフ、この紙面を

ご覧の先生方からの物心両面に渡りご支援いただき、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

まだまた復興とは遠いところに被災地、避難者はおかれています。しかし、女性と若者が元気な街は必ず元気な街になります。

そのための専門職が自分の役割、と考えております。産婦人科医療の最前線に立ち続けながらの活動は、同僚、スタッフにも

大変な負担を強いてしまっております。しかし、現場でなければつかめない、実感できない実状は、非常に大きなものです。

臨床現場と、理念と、それを伝える教育現場との距離を縮めること、も、こうした立場に立つ人間の仕事の一つだと最近強く感じています。

高村光太郎に「若手の人沈深牛の如く」と詠われたように、ゆっくりではあつても着実に、産婦人科医として、思春期に携わってきた者として、岩手の子どもたちが健康やかに育っていくような社会システムを、構築していきたいと存じます。

【略歴】1990年自治医科大学卒業。医学博士。岩手県立二戸病院産婦人科部長。岩手県立高田病院、大船渡病院産婦人科部長を経て現勤務。産婦人科認定医、麻酔科標榜医、日本性感染症学会認定医。日本思春期学会理事、日本性感染症学会東北支部副支部長。

【厚労省では毎年5月5日から1週間の「児童福祉週間」の標語を公募。平成25年度の募集には、全国から6713作品の応募があった。

君がいる ただそれだけでうれしいよ 児童福祉週間 標語決まる

3月の母子保健指導員研修会
テーマ「笑顔でできるトイレットトレーニング」
総会※開始時間が通常と異なります。
会場 保健会館新館B1F多目的ホール(新宿区市谷田町1-10)
◇日時 3月12日(火)10時

る保健師、助産師、看護師等の有資格者
◇参加費 当日会員は3千円(事前に保費まで電話またはファクスで予約) 問合せ
03(3269)4727
03(3269)2608
FAX 03(3269)2608 (齋藤)

読者の声
本会では、毎月第2火曜日に母子保健指導員研修会を開催しております。前々号(705号)4・5面にて、五十嵐元子先生の「子どもと親を支援する乳幼児健診」の

課内回覧された新聞を読みました。発達障害を有する子どもとの関わりは、保育現場の悩みなどです。今号でも、6面に研修会の模様を、この面に次回案内を掲載しております。毎月の研修

電話相談員募集
本会では、経口避妊薬、緊急避妊、月経、妊婦不安、更年期などの電

お問い合わせ先
【連絡先】03(3269)52694 (杉村)

お越しいただける方。詳細は電話でお問い合わせください。

登録無料で、お申し込みも簡単になります。ご興味のある方は、ぜひお申し込みください。

お申し込み方法は、本会のHP (http://www.jpaa.or.jp)内の「セミナー情報」のWEBフォームから必ず事項を記入の上、送信してください。登録いただいたメールアドレスに情報をお届けいたします。(月1回・不定期配信)

無料メールマガジン 配信中です ぜひご登録ください

登録ページのQRコード

女性のカラダとココロ、ライフデザインをサポート

OC情報センター(事務局) | 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3丁目9番7号 泰和ビル5階

Advertisement for OC (OC Information Center) featuring a woman's face and text about supporting women's health and lifestyle design. Includes a QR code and contact information.